

青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森

～集い語らいワークする 次世代を担う私たち～

< 事業報告書 >



事業実施期間 2009年3月20日(金)～22日(日)

場所 三重県名張市、赤目の森・ナショナルトラスト地

<主催> 青年里山フォーラム2009 in 赤目の森 実行委員会

<共済> NPO法人赤目の里山を育てる会

<後援> 名張市

<協力> NPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)、NPO法人JUON NETWORK、
Shall we forest TOKYO、国際ワークキャンプ2009 in 名張、NPO法人やまんばの会、
NPO法人子どもネットワークセンター天気村、国際ワークキャンプ名張OB会、
有限会社エコリゾート

< 目次 >

1. 青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森実行委員会について
 - 1-1. 設立のきっかけと目的
2. 本事業の基本情報
 - 2-1. 事業の概要
 - 2-2. スケジュール
 - 2-3. 参加者リスト
 - 2-4. スタッフリスト
 - 2-5. 広報に用いたチラシ
 - 2-6. パンフレット
 - 2-7. 資料：新聞掲載記事
3. 事業開催までの取り組み
 - 3-1. 広報活動
 - 3-2. 講師依頼
4. 事業様子
 - 4-1. 会場風景
 - 4-2. アンケート結果
5. 本事業の目的と成果
 - 5-1. 背景と目的
 - 5-2. 成果
6. 終わりに

1. 青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森実行委員会について

1-1. 実行委員会設立のきっかけと目的

青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森の実行委員会は、合計 12 名で結成された。この実行委員会は、NPO 法人赤目の里山を育てる会と NPO 法人 NICE が三重県名張市の赤目の森のフィールドで年 2 回開催している国際ワークキャンプで関わった青年たちが中心に結成された。国際ワークキャンプでは、里山保全活動を中心とした事業を中心に、近隣小学校との交流や地域の人に里山に足を運んでもらえることを目的としたイベントを開催するなど地域を巻き込んだ取り組みも行ってきた。今回の青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森を開催しようとした背景には、里山保全や環境問題に対する若い人の関心が低いことや、実際に活動したくても活動への一歩を踏みこめないという声があったのがきっかけである。実行委員会は、学生 8 名と社会人 5 名の青年で構成されており、大学で学ぶ専門分野や仕事内容も異なるが、一度国際ワークキャンプに参加したものが大半で、里山保全や環境問題に対する知識や関心が高かった。また、お互いが旧知の仲であり、それぞれの住んでいる地域が関東、東海、沖縄と離れていたが、メールやスカイプを駆使して連絡を密にとりあった。青年が中心となって実行委員会を結成し、青年を対象としたフォーラムを開催することは、若者がこれからの社会を担うことで画期的なことであり、市民社会活動に大きなイノベーションをおこせるのではないかと考えた。また青年が中心となって行うには、経験や知識が乏しく、NPO 法人赤目の里山を育てる会と NPO 法人 NICE の職員の方が実行委員会にも加わっていただき、運営をサポートして下さった。

2. 本事業の基本情報

2-1. 事業の概要

2-2-1. 事業の目的

里山保全や環境保全に関心がある人が集まり交流を深め、情報交換やワークショップを通して日本の里山のあり方について議論し、社会に情報発信できる場とする。

2-2-2. 実施期間

2009 年 3 月 20 日（金）～22 日（日） 2 泊 3 日

19 日に里山入門講座と前夜祭（参加希望者）

22 日解散後～23 日にエクスカージョン（参加希望者）

2-2-3. 実施場所

三重県名張市、赤目の里山・ナショナルトラスト地にて実施

2-2-4. 参加者数

総参加者 58 名（うち部分参加者 13 名を含む）

スタッフ 18 名（国際ワークキャンプメンバー 8 名、実行委員 10 名）

2-2-5. テーマとサブタイトル

本フォーラムは、サブタイトルである「～集い語らいワークする 次世代を担う私たち～」に内容が集約され

ている。まず、「集う」では、里山や環境問題に関心がある青年や学生が赤目の里山に集い、ワークショップや交流を通してお互いを知り、新たな仲間と出会う場を提供する。次に、「語らう」では、里山や環境系のサークルや団体の属している人は、所属している団体の悩みや実践している活動を紹介することで、次のステップアップにつなげることができる。これから社会人になっても社会貢献活動や里山や環境問題に関わっていきたい人は社会人になった先輩から活動に取り組むヒントを得る機会となる。それぞれの参加者が普段感じていることや、熱い思いなどをざっくばらんに語れる場も企画に盛り込んである。そして、「ワークする」では、赤目の里山をフィールドに赤目のフォーラム参加者と国際ワークキャンプの参加者と共に一生懸命里山保全ワークをして、日本の原風景や里山保全のあり方を考えるきっかけをもち、里山保全の重要性を肌で直接感じてほしいという意図があった。この3点を軸に本フォーラムを構成し、次世代を担う青年が、社会との関わりを深める場とすることを意図して企画を行った。

2-2. スケジュール

1日目

3月20日(金)

9:30	集合
10:00	オリエンテーション
11:00	開会式
11:30	基調講演
12:00	昼食
13:30	里山散策
16:30	グループミーティング・入浴・夕食
19:30	各団体による事例紹介
21:00	歓迎会

2日目

3月21日(土)

7:00	朝食
8:45	安全確認
9:00	学ぶ講座(分科会)

12:20	昼食
13:20	里山保全ワーク
16:30	グループミーティング・入浴・夕食
20:00	ワーク報告会
20:15	ワークショップ
22:00	夜なべ談義

3日目

3月22日(日)

7:00	朝食
7:45	安全確認
8:00	里山保全ワーク
10:30	シャワー・着替え
11:45	閉会式
12:30	解散 エクスカーション出発

2-3. 参加者リスト

省略

2-4. スタッフリスト

実行委員会

	氏名	ふりがな	職業
1	喜多川 権士	きたがわ けんじ	大学生
2	松浦 杏奈	まつうら あんな	大学生

3	Eric Wang	エリック ワン	社会人
4	角田 恵吾	かくた けいご	社会人
5	松本 かおり	まつもと かおり	大学生
6	加藤 有里	かとう ゆり	大学生
7	松本 類志	まつもと るいし	大学生
8	岡田 健一	おかだ けんいち	大学生
9	佐野 憲一郎	さの けんいちろう	大学院生
10	吉田 薫	よしだ かおる	社会人
11	伊井野 雄二	いいの ゆうじ	社会人
12	上田 英司	うえだ えいじ	社会人
13	南野 崇	みなみの たかし	大学生

国際ワークキャンプ

省略

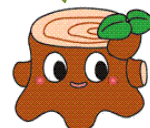
あなたのココロも
カラダもホットになれる

～集い語りワークする 次世代を担う私たち～

持続可能な
生き方のヒント



青年里山フォーラム



2009in赤目の森

里山保全や環境に関心のある青年のみなさん！

みんなで集まって熱く語り猛烈に作業して心地よい汗をかいて

これからのこと考えてみませんか？



日時：2009年3月20日(金) 10:00～

22日(日) 14:00まで2泊3日



場所：三重県名張市 赤目の里山(近鉄大阪線赤目口駅車5分)

対象者：18歳以上の健康な男女(障がい者でも参加可能)

里山、森林、景観、環境保全などに興味をお持ちの方

内容：基調講演・活動報告・実技講習・里山保全・交流会・エクスカージョン 等

募集人員：80名(先着順)

参加費：5000円(宿泊・食事込み 自炊・相部屋)

里山入門講座・前夜祭(3/19)とエクスカージョン(3/23)参加費別途必要

申込方法：メール(youth@akame-satoyama.org)

ウェブ(<http://akame-satoyama.org/youth/>)

ケータイからも

お申し込みOK!



docomo



au/SoftBank

このフォーラムで何が学べる、
体験できる、遊べる



詳しいことはウェブサイトをご覧ください。
スケジュールについては、裏面をご覧ください。

環境大臣賞受賞！里山 NPO 団体の取組のヒミツ
地元小学校の環境教育フィールド・里道の整備
21世紀型の柴刈 & 木質ペレット燃料製造
ペレットグリルヒーターや石窯での野外料理
日本ミツバチの養蜂と蜂蜜テイスティング
参考になる！里山・環境保全団体の事例報告
集まったみんなで熱く語れる！交流できる！
志高く自分たちで創る「里山宣言」社会に発信！

●主催：青年里山フォーラム2009実行委員会
●共催：NPO法人赤目の里山を育てる会

<連絡・宿泊先>

〒518-0762 三重県名張市上三谷268-1

: 0595-64-0051 fax: 0595-63-4314

<http://akame-satoyama.org>

●協力：NPO法人NICE, 国際ワークキャンプ2009in名張

実行委員会からのメッセージ

青年里山フォーラムの実行委員会のメンバーは、学生中心で構成されています。私は学生生活の間、里山保全活動に関わってきました。そして全国の里山で頑張っている人や関心のある人たちが集まって日頃の活動で思っていることや経験したことなどを話し合う交流をぜひしたいと思うようになりました。日本全国で頑張ってるみなさん！みんなで集まってワイワイ交流してみませんか。人との生活に密着し、重要な存在である里山は、時代を越えて青年達が集い学び活動するにはとても魅力的な場所です。その里山で、未来を担う私達が新たな魅力を作り出す主人公になりましょう。ぜひ、今回のフォーラムで、学生たちが集まって今後の里山について語り合しましょう。



実行委員長
東洋大学4年 岡田健一

スケジュール

	19 (木)	20 (金)	21 (土)	22 (日)	23 (月)
朝		9:30 近鉄赤目口駅集合 10:00 オリエンテーション 11:00 開会式 11:30 ~ 12:30 基調講演 「里山の伝道師の言伝」 知恵のリレーを引き継ぐ	9:00 ~ 12:20 里山保全 学ぶ講座 ・里山保全実践講習 ・日本ミツバチの養蜂伝授 ・石窯調理講習 ・環境教育 ・木質ペレットの燃料製造 ・育てる会	8:00 ~ 11:00 里山保全ワーク ・粗朶で生物生息に優しい護岸づくり ・木質ペレット燃料の製造 「みんなの手で作り上げよう！ 里山保全ワークと新しい燃料作りで汗流そう！」 ワークの後、シャワー可能	エクスカージョン 二日目 南紀熊野 志原川舟下り 三木本柵の木群落
昼	里山入門 講座	13:30 赤目の里山を散策 どんなフィールドか みんなで探検しよう！ グループミーティング	13:20 里山保全ワーク体験講座 「汗して楽しくワークしよう！」 ・ハッチョウトンボのトレール整備 ・柴刈 ・トンボ池の護岸づくり	12:45 総括 解散式 14:00 解散 14:30 エクスカージョン 奥伊勢・吉田本家の FSC 森探訪 太平洋 熊野灘 御浜町宿	伊勢河崎商人館 伊勢神宮参拝 各駅にて散会
夜	前夜祭	19:30 歓迎会 各団体による事例紹介 「膝をつき合わせて、各地の活動を聞こう！学ぼう！語ろう！」	20:00 ワーク報告会 20:30 ワークショップ 22:00 ~ 夜なべ談義 朝までトーク 「ざっくばらんに話し合おう！ 新たな仲間との出会いがあるはず」 地元のみなさんも参加しますよ。	エクスカージョン地元交流会 御浜町環境団体あつまららい みなさんとの交流 熊野神域での熱い語らい	

里山保全活動が初めての方は、前日の入門講座に参加されるのをお勧めします。
距離的な理由で20日の開会式に間に合わない方を考慮し、前日から受け入れを開始いたします。

基調講演：講師



NPO 法人赤目の里山を育てる会
理事長 伊井野雄二氏

里山の伝道師
有限会社エコリゾート代表取締役
デイサービス赤目の森施設長

経歴：1954年鳥取県生まれ 日本福祉大学卒
1983年赤目養生所事務長歴任、1990年有限会社エコリゾート代表取締役就任、2000年(財)2001年日本委員会懸賞論文・テーマ「こころの時代」最優秀賞受賞、2003年デイサービス赤目の森施設長就任、2002年から現在にかけて、各地での講演依頼多数。
ABCラジオ、NHK「ラジオ深夜便」、NHK名古屋テレビ生出演、NHK全国「ご近所の底力」等 出演。



赤目の里山の特色

世界一最小のペレタイザーによる木質ペレットの生産
ナショナルトラストによる保全運動
地元小学校との10年間続く環境教育のフィールド
日本ミツバチの養蜂
世界一小さなハッチョウトンボと絶滅危惧種の
生息地の保全活動
国際ワークキャンプによる保全活動
里山活用型通所介護施設「デイサービス」の運営
四輪バギー型草刈り機による里道整備
各種、助成金事業の企画、実施、運営



参加方法・お問い合わせ

ウェブサイトの申込フォームでは、お1人1回ずつお申込み下さい。Eメールの場合は、お名前、性別、年齢、ご住所、電話番号、所属をお書き添えの上、お申込み下さい。当方より、お申込みの確認と参加費を確定し、Eメールで連絡いたします。

お問い合わせ 又、お申込み後一週間以内に連絡の無い場合は、通信事故の可能性がございますので再度下記にご連絡ください。

< 青年里山フォーラム 2009 事務局 >

Web : <http://akame-satoyama.org/youth/>

E-mail : youth@akame-satoyama.org

TEL : 0595-64-0051 赤目の里山を育てる会 事務局内

社団法人三重県緑化推進協会 森林ボランティア活動支援事業

青年里山フォーラム

2009in赤目の森

～集い語らいワークする 次世代を担う私たち～



2009年3月20日(金)～22日(日)
三重県名張市、赤目の里山・ナショナルトラスト地

主催：青年フォーラム 2009 in 赤目の森 実行委員会
共催：特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会
後援：名張市
協力：特定非営利活動法人 NICE、 特定非営利活動法人 JUON NETWORK
特定非営利活動法人 やまんばの会、 Shall we forest TOKYO
特定非営利活動法人 子供ネットワークセンター天気村

実行委員長挨拶

みなさん、こんにちは。青年里山フォーラム実行委員委員長の岡田です。この度は参加申込をして頂き、赤目の森に集って下さりありがとうございます。実行委員会一同多くの方にお越し頂き大変喜んでます。今回、このような青年や学生を対象とした里山に特化したフォーラムを開催しようと思ったのは、これから日本の社会を担う若者たちが集う場が少なく、里山や私たちの身近な自然を残そうという取り組みが若い人たちの手によって取り組まれていないと実感したからです。里山や環境問題は今後深刻な問題として社会に位置づけられているのにも関わらず、あまり積極的に取り組まれていないのが実情です。私は今回のフォーラムの広報のために、フォーラムのチラシを持って、軽トラの荷台に薪や米、ペレットストーブを積んで、多くのNPO団体や若者に直接会いに行きました。西日本を9日間旅する中で、中には、若い人が地域に入り、里山保全や町おこしに奮闘していましたが、そういった人は稀で、ほとんどの環境保全の団体は、年配の方が頑張って取り組んでいました。若い人たちが多く集まる今回のフォーラムでは、2泊3日で短い時間ですが、多くのことを学び、体験し、仲間を増やし、帰った後にも何か次のステップに役立てほしいと思っています。里山について語り合い、私たち若者が奮起し、日本の社会を盛り上げていきましょう。



青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森

実行委員会 委員長

東洋大学 4年

岡田 健一



1日目

～スケジュール～

3月20日(金)

時間	プログラム名	場所
午前	9:30 集合	近鉄赤目口駅
	10:00 オリエンテーション	こもれびテラス
	11:00 開会式	舞台
	11:30 基調講演	舞台
午後	12:00 昼食	駐車場
	13:30 里山散策	赤目の森
	16:30 グループミーティング・入浴・夕食	エコリゾート
夜	19:30 各団体による事例紹介	レストラン
	21:00 歓迎会	レストラン

基調講演

「里山の伝道師の言伝 - 知恵の
リレーを引き継ぐ - 」

NPO 法人赤目の里山を育てる会

理事長 伊井野雄二

里山の伝道師による若者への熱いメッセージ



里山散策

グループに分かれて、赤目の里山を探検しよう！！
豊かな自然や、整備した里道、赤目小学校の環境教育のフィールドを自分の足で歩いて肌で感じよう！

各団体による事例紹介

・NPO 法人 JUON NETWORK

柳井賢太氏 < 森林保全・都市と農村のネットワーク構築 >

・NPO 法人やまんばの会

廣瀬正明氏 < 里山保全・滋賀県 >

・Shall we forest TOKYO

竹中明子氏 < 森づくり・東京都 >

・NPO 法人子供ネットワークセンター天気村

山田貴子氏 < 環境教育・滋賀県 >

・名張ワークキャンプ < 里山保全・三重県 >

松本かおり氏・加藤有里氏

 2日目

3月21日(土)		
時間	プログラム名	場所
午前	7:00 朝食	レストラン
	8:45 安全確認	こもれびテラス
	9:00 学ぶ講座	下図参照
午後	12:20 昼食	駐車場
	13:20 里山保全ワーク	第2号トラスト地
	16:30 グループミーティング・入浴・夕食	エコリゾート
夜	20:00 ワーク報告会	レストラン
	20:15 ワークショップ	レストラン
	22:00 夜なべ談義	レストラン

学ぶ講座 25分のローテーション
 里山保全実践講座(本部横)
 日本ミツバチの養蜂伝授(会議室)
 石釜調理講習(石釜の前)
 環境教育(萩とアザミの部屋)
 木質ペレットの燃料製造(駐車場)
 赤目の里山が社会に及ぼす影響(洗濯場)

里山保全ワーク@第2号トラスト地
 ここは、通称トンボ池と言われ、日本一小さいトンボ、「ハッチョウトンボ」が生息しています。池のトレールを直して、子供たちが再び通れるように修復しましょう！！

夜なべ談義
 悩みや不安解消！トコトン語り合しましょう！！

 3日目

3月22日(日)		
時間	プログラム名	場所
午前	7:00 朝食	レストラン
	7:45 安全確認	レストラン
	8:00 里山保全ワーク	下図参照
	10:30 シャワー・着替え	エコリゾート
午後	11:45 閉会式	舞台
	12:30 解散	こもれびテラス
	エクスカージョン出発	こもれびテラス

緊急参戦！！
 京都学園大学バイオ環境学部 教授
 中川 重年 氏
 里山の権威、中川教授が青年里山フォーラムに参加。この機会に里山について多くの事を学ぼう！！



里山保全ワーク
 イ．エコリゾート側の斜面の落ち葉かきと草刈
 ロ．第2号トラスト地のトレールの仕上げ
 ハ．ハニーロード芝刈り
 ニ．ペレット製造と薪割りの作業

 各チームに分かれて作業します。最後に気持ち良い汗を流しましょう！！

NPO 法人赤目の里山を育てる会

NPO 法人赤目の里山を育てる会の軌跡

1990年、名張市の赤目地区の静かな里山に、ゴルフ場建設計画が浮上し、その反対運動として、立ち木トラスト運動や、環境保全型ペンション「エコリゾート赤目の森」を設立して、ゴルフ場に代わる里山の良さを生かした開発を提案しました。この代替案が支持を集めゴルフ場建設計画は撤回されましたが、1995年、産業廃棄物処理場建設のために、赤目の森が再度危機に陥りましたが、この時も周辺の地域住民が反対運動を行い産廃場計画は中止されました。しかしこの事が契機となり、住民たちはこの自然を守るためには受け身ではなく自らの活動が必要だと考えるようになりました。そして1996年、「赤目の里山を育てる会」が発足し、里山を「守る」活動ではなく、自らの手で「育てる」活動が始まりました。



赤目の里山を育てる会の実績 環境大臣表彰の功績概要

- ・ 1990年代初めから、全国に先駆けて里山の保全活動を様々な取り組みで行い、大規模開発をオルタナティブな手法で阻止。全国の見本となった。
ナショナル・トラスト運動を中心に据えて、多くの人たちから支持を得て買取りを進めて保全した。現在は、買取り面積2筆で4000平方メートル 借地で20ヘクタールその里山の除伐採を行い、萌芽更新の促進を行っている。
里山の里道を保全の中心に据えて、里道の荒廃を防ぐとともに、年間4-5回の草刈をおこない、延べ5キロの里道を歩けるような状態に保全してきた。
休耕湿地田の有効活用を試行し、トンボ池を創設し、希少種である「カワバタモロコ」の繁殖育成をおこない、多大な成果を得ている。
周辺の里山の台風などによる「風倒木」などの除去活動など、先駆的な活動を様々な助成金を活用し、成果を上げている。
伐採材の有効活用を模索し、「シイタケオーナー」の実施や木質バイオマスなどの利用促進のための検討を行ってきている。

表彰歴	平成12年 4月	三重県環境功労賞受賞	長年の功績
	平成14年11月(財)	あしたの日本を創る協会まちづくり賞主催者賞受賞	里山保全の先駆
	平成15年11月	中部の未来創造大賞 優秀賞 受賞	里山での介護事業
	平成17年 4月	自然保護功労賞 環境大臣表彰 受賞	里山での保全活動
	平成21年 3月	名張市 特別表彰	長年の功労

赤目の里山を育てる会の特色

世界一最小のペレタイザーによる木質ペレットの生産
地元小学校との10年間続く環境教育のフィールド
世界一小さなハッチョウトンボと絶滅危惧種の生息地の保全活動
里山活用型通所介護施設「デイサービス」の運営

ナショナルトラストによる保全運動
日本ミツバチの養蜂
国際ワークキャンプによる保全活動
各種、助成金事業の企画、実施、運営



青年里山フォーラム 2009in 赤目の森実行委員会 作成

伊賀

三重

名張支局

〒518-0621 名張市結城が丘1の6の84
 TEL0595(65)9161
 FAX0595(65)9163
 nabari@mbx.mainichi.co.jp
 【伊賀軒在】
 TEL0595(21)3251
 FAX0595(21)3250
 【熊野通信部】
 090-2578-8065
 【津支局】
 TEL059(228)2211

里山保全や環境に関心を

3月20～22日

青年里山フォーラム2009 in 赤目の森
チンキ等に参加を呼びかける岡田委員長「名張市で」



講座、「夜なべ談義」も

名張 里山の将来について全国の若者たちが語り合う「青年里山フォーラム2009 in 赤目の森」が3月20～22日、名張市上三谷のエコリゾート赤目の森で開かれる。大学生らでつくる実行委員会（岡田健一委員長）は、実行委メンバーと参加者を募集している。

里山保全や環境に関心のある若者の交流を深めようと、初めて企画した。フォーラムでは、同リゾートに宿泊しながら、木質ペレット燃料の製造やミツバチの養蜂方法などを講座やフィールドワークで学ぶほか、環境問題や将来について朝まで語り合う「夜なべ談義」に参加する。希望者は19日の前夜祭や22・23両日の紀南地域などへの体験見学会にも参加できる。フォーラムの参加費は5000円（宿泊費込み）。定員は先着80人。企画立案や広報に携わる実行委と一般参加者のいずれも、大学生や若者を中心に募集するが、18歳以上なら誰でも参加できる。3月10日ごろ締め切り。問い合わせは、NPO法人赤目の里山を育てる会（0595・64・0051）。

【金森崇之】

大学生らの実行委 メンバーと参加者募集

未来の里山考えようよ！



青年里山フォーラムのポスターを掲げる実行委員長の岡田健一さん（名張市役所）

里山保全に関心がある全国の若者らが集い、議論や実践を通して未来の里山について考える「青年里山フォーラム2009 in 赤目の森」（同実行委員会主催）が3月20～22日の3日間、名張市の赤目の里山で開催される。会場と他の大学生らによる実行委員会が企画を練っており、実行委員のメンバーとフォーラムへの参加者を募っている。

「青年」と銘打たれているが、里山保全に関心がある18歳以上なら、誰でも参加できる。3泊3日で、里山の環境について話し合い、緑の活動を体験、お互いのネットワークを築く。里山のあり方について考える。今年が初めての試みという。20日午前11時に開会式。会場の赤目の

里山で保全活動を実施している（NPO）法人赤目の里山を育てる会」の伊賀野藤二階理事長が基調講演する。彼には各団体も初級研修で各地の里山を学び、21日は、午前は赤目の里山で実践されている「木質ペレット」の製造など里山保全について学ぶ講座があり、午後は実際に里山の環境整備などを体験。夜はワークショップや夜なべ談義で交流する。22日は午前中に里山保全活動をし、午後解散になる。同日下午から翌日まで、熊野地方で森林科学の勉強会（熊野交流する「エクスカージョン」）がある。

同フォーラムの実行委員会には、全国各地から大学生や社会人が参加している。フォーラム参加者だけでなく実行委員のメンバーも募集中。実行委1年の岡田健一実行委員長（21）は「この契機があれば家でも勉強、農業やNPOに関心がある人なら勉強になるし、全国に友人の輪が広がります」と呼びかけている。実行委員、参加者の呼びかけは3月10日、申込費は5千円（エクスカージョンなどは別途必要）。問い合わせは実行委員会事務局（0595・64・0051）へ。

来月 赤目でフォーラム、参加募る



3. 事業開催までの取り組み

3-1. 広報活動

3-1-1. 参加者募集の広報媒体

- ・ チラシ
- ・ メール
- ・ 団体訪問

3-1-2. 参加者募集の広報手段

- ・ 青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森 ウェブサイト
- ・ 全国の里山保全や環境系 NPO 団体、大学の NPO センターにチラシとポスター60 部を全国に配布
- ・ 全国の里山保全や環境系 NPO 団体、大学の研究室にメールを 150 通配信
- ・ 西日本に所在する NPO 団体に直接訪問
- ・ 新聞各社にフォーラムの実行委員会の募集と参加者募集に関しての記者会見を実施

3-2. 講師依頼

3-2-1. 環境・里山系各団体講師リスト

3月20日(フォーラム1日目)の午後19時30分より里山・環境系の各団体により事例紹介を行って頂いた。

	講師名	ふりがな	所属
1	柳井賢太	やないけんた	NPO 法人 JUON NETWORK
2	廣瀬正明	ひろせまさあき	NPO 法人やまんばの会
3	竹中明子	たけなかあきこ	Shall we forest TOKYO
4	山田貴子	やまだたかこ	NPO 法人子どもネットワークセンター天気村
5	加藤有里 松本かおり	かとうゆり まつもとかおり	名張ワークキャンプ

3-2-2. 外部団体の講師リスト

	講師名	ふりがな	所属	プログラム
1	中川 重年	なかがわしげとし	京都学園大学バイオ環境学部 教授	基調講演(1日目午前)
2	中村 良三	なかむらりょうぞう	コンサルタント	分科会(2日目午前)

3-2-3. ゲスト

名張市市長 亀井利克氏

ゲストとして開会式で挨拶して頂いた。

3-2-4. 協力して下さった方々

赤目の里山を育てる会会員 芝田香象氏

赤目の里山を育てる会会員 坂上優子氏

名張市立赤目中学校、赤目小学校、上野森林公園、名張市役所、名張市市民活動センター

4. 事業様子

4-1. 会場風景

<フォーラム1日目>

- ・ 開会式

亀井利克名張市長に挨拶してもらった他、青年たちがグループに分かれ合唱を行った。

(左より、喜多川事務局長会によるはじめの言葉、亀井市長挨拶、合唱風景)



- ・ 基調講演

NPO 法人赤目の里山を育てる会理事長 伊井野雄二氏による講演「里山の伝道師の言伝 - 知恵のリレーを引き継ぐ - 」(左) 京都学園大学バイオ環境学部 教授中川重年氏による講演「若い君たちへ 里山・雑木林が教えてくれるもの」(右)



- ・ 里山・環境系の各団体による事例紹介

5団体の事例紹介を参加者は熱心に聞き入った。

NPO 法人子どもネットワークセンター天気村の事例紹介(左) 名張ワークキャンプの事例紹介(右)



<フォーラム2日目>

- ・ 学ぶ講座

参加者は6つのグループに分かれ、6つの講座を各25分ずつのローテーションで聴講した。

上段左より、里山保全活動実践講座、日本ミツバチの養蜂伝授、石釜調理講習

下段左より、環境教育、木質ペレットの燃料製造、赤目の里山が社会に及ぼす影響



・ 里山保全活動

赤目の里山にある第2号トラスト地のトレールを修復した。この池には希少種のハッチョウトンボが生息している。トレールには赤目の里山に来た人が通るほか、近隣小学校の児童が年2回赤目の里山を散策する際に通る。青年たちは泥だらけになり、一生懸命里山保全活動に取り組んだ。



<フォーラム食事>

食事では、参加者が薪で炊飯を行うなど、昔の里山での生活を学んだ。鹿の肉も調理し、フライにして食した。また、地元のパン屋からパンの耳を譲っていただき、食事の最後にパンの耳で食器をきれいにしてもらい、ごみや残飯をなるべくださないことを心がけた。

左より、カレー（1日目昼食）、朝食セット（2日目朝食）、和食御膳（2日目昼食）



4-2 . アンケート結果

A) 企画に関して(6段階評価) (平均)

1. 19 日里山入門講座・前夜祭(参加者のみ)	4.4
2. 20 日開会式・基調講演	4.4
3. 20 日里山散策	4.9
4. 20 日事例紹介	5.0
5. 20 日歓迎会	4.9
6. 20 日学ぶ講座	
6-1 里山保全実践講習	4.5
6-2 日本ミツバチの養蜂伝授	4.9
6-3 石釜調理講習	5.1
6-4 環境教育	5.2
6-5 木質ペレットの燃料製造	5.4
6-6 赤目の里山が社会に及ぼす影響	5.3
7. 21 日里山保全ワーク(トラスト地の整備)	4.7
8. 21 日ワークショップ	4.8
9. 21 日夜なべ談義・交流会	4.9
10. 22 日里山保全ワーク	4.5
11. 企画全体に対する感想・改善点	後に記載

B) 生活面に関して

1 食事の満足度	4.8
2 宿泊施設の満足度	4.8
3 スタッフ対応の満足度	4.7
4 生活面全体に対する感想・改善点	後に記載

C) フォーラム全体に関して

1 フォーラム全体の満足度	4.8
2 フォーラムを交流の場としてうまく活用できましたか?	4.8
3 一番印象に残った出来事・感じたことは何ですか?	後に記載
4 このフォーラムから学んだこと・得たことをご自由にお書き下さい	後に記載

A-11 企画全体に対する感想・改善点

- ・学ぶ講座がとてもよかったと思います。今まで里山について無知に等しかったので、はじめて聞くことばかりでためになりました。夜の交流会では多くの人と色々な話ができてよかった。ありがとうございました。
- ・自分の目で見て感じるプログラムだったので、とても充実した3日間でした。
- ・何もかもが初めての体験で、新鮮だった。
- ・実行委員の皆様本当にありがとうございました。学びあり・ワークありでとても良かったです。人数が多く、全員を知ることが難しかったので、最初のアイスブレイクなど、参加者が知りあうフックがあればもっと良かったです。

- ・道具のアナウンスが不十分。作業の意味について説明不足
- ・トレールは誰が完成させるんですか？自分たちで完成させたかったです。事前にワークの内容を連絡してほしいかった。集合と言われるだけで、持ち物があるのか無いのかも分からなかったの。
- ・面白い企画ばかりでしたが、それぞれの時間が短かったのが残念でした。特にワークショップはもっと時間があれば充実した話ができたとと思います。
- ・たくさんの人とあえて面白かった。しかし里山がどのような場所なのか、もっと知りたかった。天気も良くななく、ワークが少ないのは残念でした。また、安全管理にもっと力を入れなければ、けが人が出てもおかしくないワークだったと言える。ここはとても良いところなので、もっと魅力を知りたいと思った。
- ・すごく内容は良かった。すこしだけ運営の段取りがわるいのが気になった。
- ・座学、ワーク共にバランスがとれている。
- ・かつおが頑張ってた。褒めてあげてください。
- ・散策では案内することだけでいっぱいになってしまい、周りが見えなくなっているかなと思いました。案内をしてくれるスタッフなら、そのメンバーで一度歩くなど、確認してほしい。やってたのかもしれないが、少し道に迷うことができました。
- ・全体的にいろんな意味で準備不足。せめて参加者案内に長靴・防寒着を書くか、ワーク内容を教えてほしいかった。また、参加者にいろいろと役割を投げすぎている。例えばリーダー。「～までにグループミーティングをお願いします」と言っても、彼らの中にはミーティングで何を話していいかわからず、ミーティングの仕切りをいきなり任されてもできない人もいます。グループ内で厳しい意見が出た場合、「参加者」である彼らがそれを負わなければならないのか。あるいは、スタッフが忙しすぎて手に負えない(たとえば、皿洗い・机運びなど、参加者に任せられることもあったと思う。そうすれば負担も減った。)ので参加者に、「お客様感覚ではなく自分たちで課題に取り組むことを学んでほしい」などの事情や理由があれば、それを参加者に伝えるべきだったと思う。特にディスカッションの準備・進行は雑だった。変更事項の連絡・場所・重要な連絡事項は書面も交えて伝えるとミスもなく、分かりやすい。まとめると、参加者に任せること・スタッフが担うことが混乱していたため、全体的な流れに不具合が生じていた。皆さん頑張っているのにもったいない。
- ・ワークショップがとても面白く、もっと時間をかけて話し合いたいと思ったので、21日の歓迎会とかをその時間にあててもよかったと思った。
- ・人数が多いので、人の振り分けが大変そうだった。自由な時間が多かったが、一部の人がたくさんの仕事をしていたのでは？
- ・学ぶ講座が特に興味深かった。実際に働いてみて、その大変さを実感した。事前準備・持ち物等の説明がもっとあるとよいと思います。
- ・ワークに関して計画性に欠けると思います。でも個人的には十分楽しめた。

B-4 生活面全体に対する感想・改善点

- ・クシャミをしている人が多かった
- ・毎日が和食で健康に良いと思う
- ・実際にワークしてみて、やりがいや大変さについて考えることができました。
- ・食事のあとのパン拭きが面白いと思いましたが、最後までやらなかったのが残し、残念でした。
- ・レストランが少し狭かったと思う
- ・部屋の埃をなんとかしたらいいと思った。
- ・食事とてもおいしかったです。作るのが大変でないかと…。もっとシンプルでも大丈夫です。思ったより寒か

ったので、個人的に服を準備してくればよかったと思います。

- ・布団が小さかった
- ・整った整備で快適だった。
- ・スタッフの人たちが本当によく細かいところまで気づいて動いて下さった。
- ・食事おいしかったです。ご飯のあまりの行方が知りたいです。
- ・スタッフの皆さんが優しくしてくれ、とても頑張っていたのでよかったと思います。
- ・生活面に関してはとてもよかった。
- ・シカ肉がおいしかったです。
- ・皆さん次の日にはクシャミをしたり、鼻をすすったりしていたので、埃がたまっていたのかな、と気になった。
- ・とてもスタッフの人が忙しそうだった。手伝ってあげたかった。少し申し訳なかった。宿泊施設は素晴らしいところだった。
- ・とても良かったです。ただ、食事や掃除、片付けなど、もっとできればよかったと思います。すべてキャンパーさん任せだったので。学びに来てるのに、お客さん待遇で少し違和感を感じました。
- ・楽しかった！！夜遅くまで起きていると、次の日に響くのは分かっていたけど、皆と一緒にいたくてたくさん夜更かししてしまいました。

C-3 一番印象に残った出来事・感じたことは何ですか？

- ・ディスカッション
- ・夜なべ談義・交流会
- ・二日目のワークの時、鉄網の撤去で思いがけないリスクが発生したとき、スタッフを中心に皆がきびきび動いて安全にできたことに感動しました。
- ・夜の話し合いがとてもよかった。グループディスカッション
- ・全国の人との交流
- ・田んぼの土を運ぶ作業。ペレットを作る機会は思ったよりデリケート。
- ・環境教育で「原風景」の話聞き、都会で育ったと思っている自分にも自然にたくさん触れた経験、原風景がある事に気付きました。
- ・人と知り合うのは楽しい！！ということ。
- ・19,20日のまだ体力が有り余ってる時の夜なべ談義の時間はいろんな人と真剣に話ができ有意義だった。
- ・「たもかく」という団体の取組について聞いたことです。これまで思いもなかった選択肢に、目から鱗がポロポロでした。
- ・みなさんといろいろお話ができたこと。
- ・里山散策
- ・シカ肉に感動しました。
- ・学生がとても楽しそうだったこと。
- ・楽しみながら活動ができることはとても大切。
- ・久しぶりに、1時に眠たくて寝ました。
- ・同世代の人との交流場にいるんな意見交換や語り合いができ、とても良かったです。
- ・スタッフの皆さんがとても里山・森林について専門的で熱心にやっていたらっしゃる方ばかりなのに、「ワークキャンプ」としての仕切りがあまりにもなっておらず、もったいないと思った。せめて参加者に対し、バラバラな支持を出さないよう、スタッフ内で流れ・支持を共有してほしい。

- ・交流会でいろんな意見を聞いたこと。
- ・ワークショップ
- ・食事準備やプログラムなど、人手が必要な時は参加者に声をかけてほしい。
- ・環境や森林の専門家はもちろん、他分野で学んだり、働いている人々が集い、話をしたこと。自分の知らない事をたくさん知れた。
- ・夜なべ談義。二日目ということもあって、緊張が解けて話し合うことができた。

C-4 このフォーラムから学んだこと・得たことをご自由にお書き下さい

- ・ディスカッションで興味・関心が高まった
- ・今の若者は生活力が足りないということ。里山で活動するということは、こうした失われた生活力を取り戻すという事でもあるということ
- ・いろんな活動をしている同世代がいることを実感できた。先輩方から面白い話もたくさん聞いた。
- ・里山保全の状況と問題点
- ・いろんな立場や考え方を持った人がいること。
- ・どの分野、どのフィールドで仕事をするにしても、社会を少しでも良くするために学び続け、工夫し続けることがすごく大切だと思いました。こういう気づき・人との出会い・体を動かすこと・感謝、いつも忘れないようにしたいです。
- ・みんなで力を合わせることの大切さ。同じ志の人たちが社会で頑張っている姿を見てよかった。
- ・自分の里山に対する認識がまだまだ未熟であった。フォーラムに参加して、多くの人と話すことが重要ってことを思った。
- ・里山を利用して人々が生活することの大切さを多く学んだ。
- ・各地から集まった実行委員のかた、企画運営ありがとうございました。
- ・里山というテーマで考えても、人によって本当に様々な意見を持っていると感じた。集まって話し合う事がとても大切だという事を学んだ。
- ・里山への想い、考え方、里山の問題
- ・森林や里山に関して積極的に活動している人もいる。
- ・環境に興味を持った若者は多いこと。その多くの若者が集まって行動すれば何かできるということ。
- ・事例紹介。「子供に対して待つ」態度。
- ・青年という世代が里山に関わる
- ・里山は楽しい。そして地元でも動きたくなった。
- ・管理の中、管理ではダメ！！
- ・里山保全の意義と実態
- ・自分が知らない事がたくさんあるという事。それと同時に、それを知っている人の知らない事を私が知ってたりもするという事。幅広い興味を育てることの難しさ。
- ・自然の中で人と出会うと新たな発見がたくさんあった。人と人とのつながりが、里山づくりには不可欠だと思った。

5．本事業の目的と成果

5-1．背景と目的

背景

里山や環境問題がこれからの社会の課題と位置づけられ、社会的認識も高まっている。しかし、未来を担うはずの青年や学生が里山や環境問題への認識が高くないのが実情であり、今後身近な自然を担っていくのは私たち若者だが、残念ながら積極的にこれらの保全活動に取り組んでいる若者はごく少数である。また、取り組んでいきたくても、どう実行に移せばいいのかわからないという話を聞く。青年里山フォーラムを開催することで、学生がこのフォーラムを機会に集まり、未来を担う私たちが議論する場を持てるようにしたいという強い希望があった。今回のような、里山保全をメインにした学生や青年が対象であるフォーラムは前例がなく、全国各地の多くの学生や青年に参加してもらい、フォーラムを盛り上げ、若者の力で社会に少しでも影響を与えていきたいと考えた。今回のフォーラムはそれだけ参加者が大切であり、どれだけ興味のある人にこのフォーラムの取り組みを知らせることができるか、そして参加してもらうかが重要であると感じた。

目的

- 青年たちが「集う」場の創出
- 青年たちが「語らう」場の創出
- 青年たちが「里山保全活動」を行う場の創出
- 社会への情報発信

5-2．成果

青年が「集う」場の創出 に関して

社会において、青年が集まって何かをするという機会が少なく感じており、環境問題や里山保全は今後社会が避けて通れない問題であり、若い人たちが関心を持って行く必要がある。そのような状況の中、全国から58名もの環境や里山保全活動に関心がある青年が集まり、2泊3日ディスカッションや里山保全活動を行ったのはとても社会にとって影響力がある取り組みであると実感した。なぜなら、これから社会を担う人は、今の若者であり、今後環境問題に関してリーダーシップを発揮して取り組むのは青年だからである。未来を担う青年が58名で交流を深めることで、新たな仲間と出会う場となり、お互いが関心を高め合い、各自学んだことを自分のフィールドに持ち帰って広めてくれることで、今回のフォーラムの青年たちが「集う」場の創出という目的は達成できたと言える。

青年が「語らう」場の創出 に関して

今回のフォーラムで同じ興味や関心をもった青年が「語らう」ということで、ただ話をするのではなく、自然と今後の環境問題や里山保全の在り方という内容を議論し貴重な時間となった。参加者の中には、これから環境問題や里山保全活動に興味がある人や、既に環境系のNPOや大学サークルや所属している人がいた。これから環境問題や里山保全活動に関わって行きたい参加者には、既に活動している人の話はとても参考になったとアンケートから読み取れた。さらに、事例紹介をしてくれた講師の方々も青年が「語らう」場に積極的に関わって下さり、青年は環境問題や里山保全活動に取り組んでいる第一線の人たちからざっくばらんに質問や話しができた。「語らう」場の創出によって、環境問題や里山保全活動に関わって行きたい参加者は、自分たちの今後の取り組みの参考となる話しを聞く機会を得られ、既に環境系のNPOや大学サークルや所属している人たちは、自分た

ちの活動を紹介するよい機会となった。

青年が「里山保全活動」を行う場の創出 に関して

フォーラムの2日目の午後と3日目の午前に里山保全の重要性を肌で直接感じてほしいという思いから里山保全活動をプログラムとして入れ、参加者全員で共に行った。2日目の午後に行ったトレールの補修においては、参加者全員でトレールを張り替え、池の土を掘る作業を行った。参加者の中には、やり始めに労働と感じて気乗りしないものもいたが、参加者皆で一緒に作業し、泥まみれになり、里山を訪れる人や子供たちのためにトレールを補修することにしだいにやりがいを感じていた。環境保全や里山保全といっても、実際にどのようなことがわからず、経験したことがない参加者が多かったため、作業をしている参加者の豊かな表情や楽しんでいる姿から里山保全活動のやりがいや楽しさを発見できた。環境保全活動に関しては、継続的な取り組みが不可欠なため、今回の経験が社会において環境保全活動の取り組みを促進させることにつながり、より広まることで継続的に活動してくれる人が増えてくれることが期待できる。

社会への情報発信

2日目に行ったディスカッションで議論した内容を基に里山前宣言を取りまとめて作成した。以下里山宣言の内容である。

青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森

～ 集い語らいワークする 次世代を担う私たち ～

里山宣言

前文

環境の世紀と呼ばれた21世紀を、期待を抱いて迎えてから8年経った今日、世界各地で、森林破壊、汚染、生態系破壊といった、環境問題が深刻さを増しています。地球温暖化が問題となり、各地で異常気象により自然が猛威を奮い始めています。経済格差や貧困問題は依然として残っており、改善の兆しはみられていません。

日本国内に目を向けると、昨年からの経済危機で失業率が増加し、特に若者の働く機会が失われています。少子高齢化により、自分たちが年金を受け取れるかわからない中、少ない収入から毎年増え続ける社会保障費を支払わなければなりません。ニュースでは、連日のように、同年代の若者たちが路頭に迷うのが報じられています。

そのような情勢の中、各地で黙々と環境保全活動をしている青年たちが、互いの活動を持ち寄り、励まし合い、将来を展望しようという思いを抱いて集まりました。そして、寝る時間を惜しんで語り合い、疲れた体にむち打ちながら真剣に仕事に取り組みました。その活動を通じて得られた認識と行動計画を、次の里山宣言という形で宣言します。

里山宣言

・私たち青年は、農山村地域に入り、現場の実態を正しく把握します

自分自身で農山村地域を訪れ、現場の実態を正しく把握するよう努力します。そのため、都市部の青年と農山村地域の青年の連携を密にし、お互い気軽に訪れられる関係づくりを進めます。

・私たち青年は、身近な人と問題意識を共有し仲間を増やします

森づくりの現場で得た体験や感動、問題意識を、自分の家族や友人などに随時伝え、森に興味を持つ仲間を増やします。

・私たち青年は、森に関する正しい情報を広く社会に発信します

森との関係が希薄になり、森に対する誤った認識を持つ人が増える中、写真、映像、ブログなどを活用して正しい情報を発信し、問題を社会に投げかけます。

・私たち青年は、流行と森を融合し、新たな文化を創ります

先輩たちが森で育んできた文化を学び尊重したうえで、現在の流行と森を融合させ、カッコいいと思えるような新たな文化を発信します。

・私たち青年は、ライフワークとして率先して環境の保全に取り組みます

自分たちがこれから社会の中核を担うという自覚を持ち、人生の全ての機会でも環境の保全をリードする立場を担います。職業として森づくりを選ぶ者も、森と離れて仕事をする者も、森を中心とした環境の価値を忘れることなく、それぞれの職場で率先して保全活動に取り組みます。自分の家庭を持つときは、配偶者や子どもに森林体験を行う機会を与え、環境の価値を共有します。

平成 21 年 3 月 22 日

青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森 参加者一同

6. 終わりに

現在、環境保全や里山保全活動に関わっている人は、年配の方々が中心であり、青年はまだまだ少ない。里山に着目すると、エネルギーのほとんどを電気やガスに頼るようになり、人間の身の回りを取り巻く環境が大きく変化したため、かつて里山と人間は密接に関わっていたが、現在は今までのような関わり方がなくなり、日本の里山の価値が失われている。しかし、里山にはまだ無限の可能性が秘められており、今までずっと里山と密接に関わってきた人間にとって、世代を越えて伝承されてきた文化的な側面を無視できない。文化は、世代を越えて伝承されてきたが、現在、里山や環境問題においてその伝承の断絶が危惧されている。今こそ青年である私たちが、その文化を子や孫の世代に伝えなければならない。それが私たち青年の共通のミッションであると言える。私たち共通のミッションとして、環境問題は今後避けて通れない問題であり、今取り組まなければいけないことである。環境系のボランティアをしても、学生を終えて、社会人になると忙しく、学生の時のようなボランティア活動がなかなかできなくなる人がたくさんいると聞いた。私たち青年の共通のミッションである環境保全、里山保全活動は継続が大切であり、多くの人を巻き込んで行う必要がある。そこで、今回のフォーラムのように全国で青年が集まって、自分たちが未来を担っていくと自覚し、環境に限らず、さまざまな活動に積極的に取り組む機会が必要であると感じる。全国で青年が主体的に行動すれば社会はよりよくできる。

今回の青年里山フォーラムでは、無事事故もなく終え、さまざまな人の協力を得て、深く感謝している。青年中心の実行員会だけでは、力不足の面が多々あったが、周囲の人や地元の方々に支えられた。青年を温かく見守ってくれている視線はとても心強かった。私たち青年も、次の世代に価値ある自然や文化を伝承できるように、日々関心を高め継続的に取り組んでいきたい。

青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森実行委員会
〒518-0762 三重県名張市上三谷 2 6 8 - 1
TEL 0595-64-0051 FAX 0595-63-4314
E-mail youth2@akame-satoyama.org

発行日 2009年5月12日